



資料 4

令和6年度 兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会総会

「鳴門海峡の渦潮」世界遺産登録に向けた徳島県の取組について

兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会
(徳島県文化資源活用課)

令和6年度の主な取組



学術調査(文化的調査)

- 学術委員委員会の開催(令和7年2月3日開催)
令和6年度の文化的調査について進捗状況を報告・令和7年度以降の内容協議等
- 「鳴門の渦潮」調査研究チームによる調査・研究
「淡路国分間絵図」を基にした歴史地理学的手法による
「鳴門の渦潮」と淡路島の「文化的景観調査」についての調査・研究を実施
・合同研究会の開催 ・沼島現地交流会の開催

普及啓発

- 「鳴門の渦潮」ワークショップの開催
- 「鳴門の渦潮」世界遺産パネル展・中学校美術部作品展
- 普及啓発活動支援事業補助制度の運用
- イベント等への出展・PR活動 等

今後の世界遺産登録の方向性(登録に向けたアプローチ)の検討(徳島・兵庫県合同)

- 有識者等を委員とする世界遺産登録検討会議を設置し、
今後の世界遺産登録の方向性の検討(令和6年度3回開催)

学術調査(文化的調査)の経緯①



文化的調査（平成27年～）

「鳴門の渦潮」に関する「芸術・文学」「観光・往来」「生業」の側面から調査研究を実施（※鳴門側を中心とした文化的調査）

主な調査項目

【芸術・文学】

- 原始・古代・中世の鳴門海峡
- 古典文学、古地図、地図にみる「鳴門の渦潮」
- 江戸時代絵画に描かれた鳴門海峡

【観光・往来】

- 19世紀における撫養湊の発展と淡路廻船
- 徳島藩蜂須賀家の鳴門海峡支配
- 「観光地・鳴門」の形成・発展とメディア
- 西洋人の目からみた「鳴門の渦潮」

【生業】

- 鳴門海峡における漁業と鳴門の漁民－「鳴門鯛」と「鳴門わかめ」－
- 淡路島と鳴門市域の塩業－土器製塩から現代の塩業まで－

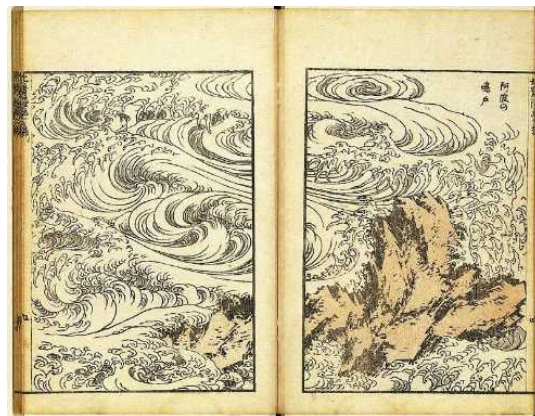


【芸術・文学】の側面

「鳴門の渦潮」が芸術の創造の源に



歌川広重『阿波鳴門之風景』(安政4年:1857年)



葛飾北斎『北斎漫画』より
「阿波の鳴門」



歌川広重
『六十余州名所図会
阿波鳴門之風波』
(安政2年:1855年)

神話の舞台



「天之瓊矛(あめのぬぼこ)を以て
滄海を探るの図」
小林永濯(アメリカ・ボストン美術館 蔵)

破壊的なイメージだけでなく「創造的」なイメージ

【観光・往来】の側面

〈鳴門海峡〉

○古来、「航海上の難所」とであるとともに、主要な交通路の一つである「南海道」の一部と位置付けられるなど「**海運上の要所**」

○江戸時代から「観潮」が行われ、「**観光名所**」として発展



徳島藩御召鯨船千山丸（江戸時代の和船）
【**日本最古**】



お茶園展望台（江戸時代～）



「名勝」鳴門
（観潮の「**最も好適な場所**」として指定）



観潮船（現代）

【生業】の側面

鳴門海峡が育む食材 速い潮流が育む海の恵み



鳴門鯛

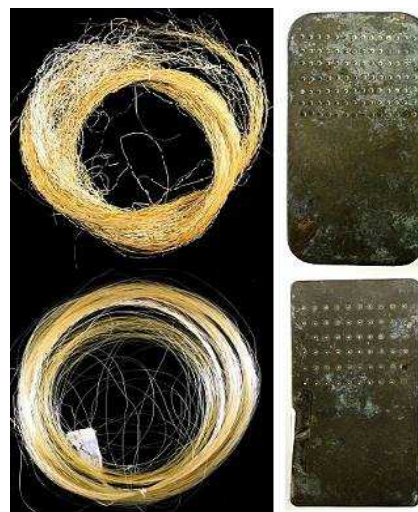


鳴門わかめ

鳴門海峡での漁の工夫 速い潮流に負けない工夫



カンコ舟



テグス

鳴門海峡の地形を活かした製塩 古来からの製塩の場所



日出遺跡(鳴門市)の製塩土器



福永家住宅(国重文)

塩田廃止後も製塩に
由来する産業が継続

「文化的価値」のとりまとめ文書(令和元年度)

- 「鳴門の渦潮」が発生する「大鳴門」だけでなく、「小鳴門」エリア、「淡路島」を含めた面的な調査が必要

「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト・調査研究チーム発足

- (座長) 藪田 貫 「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト実行委員会会長
(兵庫県立歴史博物館長兼ひょうご歴史研究室長)
- (委員) 坂江 渉 ひょうご歴史研究室・研究コーディネーター 他6名

淡路島調査(第I期)(令和2~4年度)

調査の過程で、19世紀後半の自然と人の生業を示す
「淡路国分間絵図」の調査研究の必要性の再認識

淡路島調査 (第Ⅱ期) (令和5年度～)

○淡路国分間絵図

- ・1820～30年代に徳島藩が、阿波と淡路で実施
- ・淡路島全体の当時の地理情報として最も信頼のおける資料で、各村毎に作成
- ・1800分の1という大縮尺は、島内の各地区の地理情報を読み取る上で最良のもの



当時の住民の活動の軌跡

- ・「鳴門の渦潮」を生む海流の変化、潮位の変化と地震などの影響
- ・浦や湊の形成と漁労・運搬活動
- ・漂着物の利用と自然との共生、えびす信仰、浜辺の松林資源の循環利用と流通、ため池による治水涵養
- ・京・大阪から淡路に至る南海道の整備等

「島内地形の変遷」の解説と「渦潮」との文化的関連性

■研究テーマ

「淡路国分間絵図」を基に、歴史地理学的手法による
「鳴門の渦潮」と淡路島の「文化的景観」についての調査・研究

淡路島現地調査・研究報告等

(1)「鳴門の渦潮」調査合同研究会(第1回)

(令和6年5月25日・26日)

「淡路島の分間絵図」調査研究の進捗状況等について討論。

委員による「分間絵図」と「淡路名所図会」に関わる現地調査を実施。

(2) 沼島現地交流会

(令和6年8月6日)

委員による淡路島民の方との交流会を実施。

島民の方に沼島の文化遺産をめぐる調査研究の
成果報告を実施。島民の方から鳴門の渦潮をめぐる
漁業慣行、沼島の生業や生活習俗などの聞き取りを
実施。

(3)「鳴門の渦潮」調査合同研究会(第2回)

(令和6年9月28日・29日)

「淡路島の分間絵図」調査研究についての最終報告会を実施。

また、報告書作成に向けての総合討論を行った。



【大阪湾岸の海人と遠洋航海—神武東征伝承を中心に—】

「記」・「紀」における椎根津彦(ウミガメの背に乗って現れる)の海路指導者としての伝承と倭直氏の支配圏、その下での瀬戸内から熊野灘にかけての海人集団の存在。

【(ひょうご歴史研究室客員研究員・神戸大学大学院人文学研究科 教授)古市晃】

【古代の白砂青松の浜辺と飼飯の海人—「慶野松原」—】

淡路における海人集団—野島(津名郡)と阿万に加え、飼飯(気比、ともに三原郡)の海人の立地として砂堆列が形成する内部の干潟と港・浜の機能、海人集団の王朝への服属。

【(ひょうご歴史研究室 研究コーディネーター)坂江渉】

【淡路国府について】

淡路国府の推定値と神代国衙村「分間絵図」の「コウノ本・コウノ神」、三原郡木辺遺跡の列状連結型国府の一部であった可能性、南海道ならびに瀬戸内水運との関係。

【(京都府立京都学・歴彩館 館長)金田章裕】

【中世淡路の所領単位と八幡宮】

1223年「淡路国大田文」による神社と八幡宮領の広がり、守護による一国法会、「八幡宮絵巻」の紀伊から淡路への転写・伝播と安宅氏・梶原氏の紀伊から淡路・沼島への進出。

【(ひょうご歴史研究室客員研究員・関西大学 非常勤講師)大村拓生】

【寄図と鹿絵図にみる伊能忠敬の鳴門海峡測量】

伊能図には測点と側線からなる実測平面図(寄図)と、立体感を与える美しい鹿絵図があるが、鳴門海峡とその周辺は、両図が揃う稀なケースとして解説、村群界への意識の高さ。

【(徳島大学 名誉教授)平井松午】

【分間絵図にみる近世淡路の村落景観—三原郡湊里村を事例に—】

「湊里村・湊浦分間絵図」と村方文書を元に、本来一体であった両村が、「村切り」以降、土地所有・生活共同体・水利と山の利用などでどう変化していったかを明らかにする。

【(鳴門教育大学大学院学校教育研究科 教授)町田哲】

【19世紀初頭における淡路島南部の村落景観—立川瀬村周辺を事例に—】

「三原郡分間絵図」にある立川瀬村について、村方文書と合わせて当時の景観や人の移動を明らかにするとともに、近世淡路の特長と言える溜池の普請と保全を論じる。

【(兵庫県立歴史博物館 学芸員)竹内信】

【淡路の浦と「名所図会」・「分間絵図」—由良・江井浦・湊浦・古津路—】

平面図である「淡路分間絵図」と鳥瞰図である「淡路名所図会」を利用し、東西の浦、とくに由良・江井と湊・古津路を取り上げ、砂嘴の形成と漁業・廻船などの情報を読み解く。

【(ひょうご歴史研究室 室長)藪田貫】

【沼島と徳島藩—漁業権と出漁をめぐる—】

【(徳島県立博物館 人文担当学芸係長(学芸員 歴史担当)松永友和】

【分間絵図に保存された景観—沼島浦と福良浦—】

【(神戸大学大学院人文学研究科 特命講師)木村修二】

【沼島漁場の多層性と漁民の移動性—沼島漁協文書からの検討—】

【(徳島県立博物館 上席学芸員(民俗))磯本宏紀】

沼島調査を担当した三氏による論考で、沼島と福良の「分間絵図」は再発見である。漁協文書は新たに発見されたもので、明治期における沼島漁業の実態と、その初発とも言うべき蜂須賀蓬庵の判物について紹介する。なお漁協文書の目録を付す。

●所感

- ・歴史的に淡路を特徴づける砂嘴の形成・海人・南海道・紀淡海峡・水軍・漁業・海運などについての論考が集まる。

●「島内地形の変遷」の解説と「渦潮」との文化的関連性

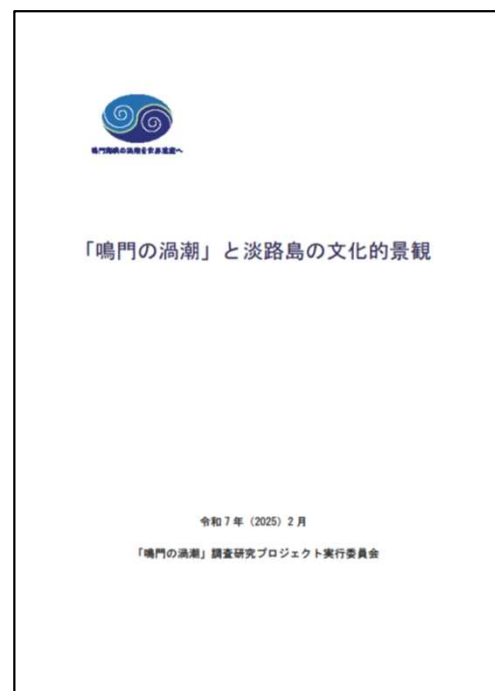
- ・淡路島を代表する「慶野松原」や「由良の砂嘴」など、浜辺の美しい景観の形成要因として、内陸部からの大量の流砂、潮の海面変動などのほか、「鳴門の渦潮」を生み出す沿岸部の強い潮流が影響を与えていたことが見えてきた。

●「鳴門の渦潮」と淡路島の「文化的景観」

- ・「淡路国分間絵図」と「淡路名所図会」の分析を通じて、淡路島南部の沿岸部や沼島のかつての海岸線や生活のあり方、信仰形態が具体的に浮かび上がった。

「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト (「淡路国分間絵図」の詳細調査研究)

「『鳴門の渦潮』と淡路島の文化的景観」報告書刊行



目次	
巻頭口絵	
阿波と備前・淡路と備前 ― 阿波にあって ―	巻頭 頁・・・ 1
「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクトの活動状況・調査研究チーム名簿	・・・ 3
目次	・・・ 4
本文編	
大坂湾岸の海人と遠洋航海 ― 神武天皇伝説を中心に ―	吉市 晃・・・ 7
古代の自給自足の島と朝鮮の島人 ― 「唐野抄」 ―	宮川 夢・・・ 17
淡路国分について	金田孝彰・・・ 26
中世淡路の所領単位と人権	大村拓生・・・ 33
豊田と島根にみる伊勢参詣の備前海岸調査	平井松年・・・ 47
分間絵図にみる近世淡路の村落景観 ― 三原郡桑原村を事例に ―	町田 哲・・・ 59
19世紀初頭における淡路島南部の村落景観 ― 立川郷村域を事例に ―	竹内 健・・・ 72
淡路の諸島と「島所図会」・「分間絵図」 ― 島見・江戸橋・備前・古津島 ―	巻頭 頁・・・ 87
淡路と淡路島 ― 淡路島と出島をめぐって ―	松本友和・・・ 96
分間絵図に保存された景観 ― 淡路島と淡路島 ―	木村修二・・・ 102
淡路島の多層性と島民の移動性 ― 淡路島文書からの検討 ―	橋本史紀・・・ 115
解題編	
「淡路島分間絵図」解題	平井松年・・・ 129
附 「淡路島分間絵図」所在マップ・一覧表	
「淡路島所図会」解題	巻頭 頁・橋本明子・・・ 138
『淡路島所図会』解題	吉田孝人・・・ 141
解題 近世初期淡路島の島民制2点について	竹内 健・・・ 144
編集後記	
‐ 4 -	

分間絵図を元に歴史地理学に基づく調査が進展

(1)「鳴門の渦潮」ワークショップの開催

①福永家住宅一般公開

学術調査成果の普及啓発を目的としたパネル展示とともに、鳴門海峡の恵みであり、鳴門の経済を支えた「塩づくり」現場を体感するワークショップを開催した。



福永家住宅一般公開

②中学生との意見交換会

愛知教育大学附属岡崎中学校生徒と協議会構成員である地元団体や自治体職員とともに意見交換会を実施。

(2) 出前授業の開催

徳島県内の学校において、鳴門の渦潮世界遺産の登録に向けての取組の説明、リーフレットの配布を行った。



出前授業

(3)「鳴門の渦潮」世界遺産パネル展・中学校美術部作品展

鳴門市第一中学校美術と連携し、生徒の皆さんが描いた鳴門海峡にまつわる文化財の作品展と世界遺産の取組パネル展を鳴門市役所等で開催

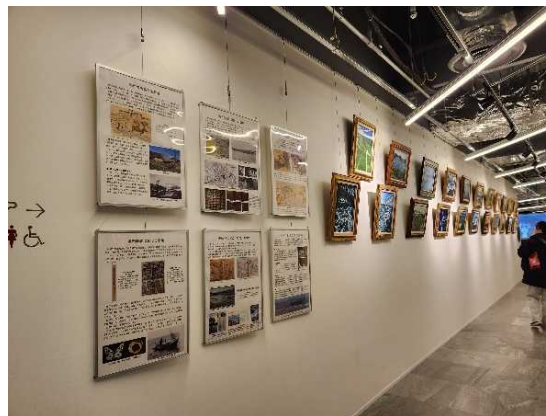
- ・鳴門市役所・キョーエイ鳴門駅前店(7/29～8/9開催)
- ・キョーエイ鳴門駅前店(1/11～1/16、1/27～2/5開催)
- ・とくぎんトモニプラザ廊下展示場(2/18～3/2開催)
- ・県庁ふれあいセンター(3/4～3/11開催)



キョーエイ鳴門駅前店



とくぎんトモニプラザ廊下展示場



鳴門市役所市民ギャラリー展示

令和6年度の普及啓発③

(4) 普及啓発活動支援事業補助金制度

「鳴門海峡の渦潮を世界遺産にする会」が実施した
クリーンアップ作戦(海岸清掃活動)事業に対し、経費の一部を助成

- ・開催日 令和6年10月26日(土)
- ・場 所 千鳥ヶ浜海岸(鳴門市) ・参加者 約100名



3海峡クリーンアップ大作戦

(5) その他イベントへの出展・PR活動

- ・鳴門のまつりでのPR活動
渦潮に関する簡単なクイズを実施し、回答者
にパンフレットや渦潮関連グッズを配布。
- ・ガイドマップの改訂・増刷による
鳴門市内中学校・公民館等への配布
- ・徳島県や県外等での開催イベントに
おいてリーフレット・PRグッズ配布
- ・普及啓発グッズの作成 等



中国・四国民俗芸能大会
(山口県周南市)



鳴門のまつり



文化編ガイドマップ

世界遺産登録に向けた情報発信（徳島・兵庫県合同）

○大阪・関西万博の開催に合わせて「国際シンポジウム」を開催し、世界遺産登録に向けた調査成果を踏まえた普遍的価値や渦潮の魅力について、国内外に情報発信

学術調査（文化的調査）

○平成6年度に決定された方向性に合わせ、必要に応じて補完調査の実施
○学術調査の成果を踏まえ、「鳴門の渦潮」の文化的価値を発信

普及啓発

○調査研究内容や「ガイドマップ」を活用した出前講座・授業等
○普及啓発活動支援事業補助金制度の運用
○ワークショップやイベント等によるPR活動、パネル展等の開催
○パンフレット等PRツールの作成・配布